







鉄骨造の三階建ての建物内部を改修した スペイン語で“鹿”という名のダイニングバー

内部の造作の随所に“エゾシカ”の角を使用し アクセントとしている

元は寿司屋であった既存空間の“内側”を徹底的に排除し  
無機質なセメント系ボードのみでニュートラルな空間とした

クライアントご本人が設備設計施工会社ということ  
簡単な造作家具工事や建築工事もやられることなどを踏まえ

今後クライアント本人の手で上書きされる  
(例えば壁付のシェルフやチェアやテーブルなど) “モノ”が  
多層なレイヤーとして重ねられるように配慮した結果である

感性の赴くまま変容する内部を受け止める 寛容な空間を目指した